

## 自宅 UR の広場

星ヶ丘の UR 賃貸住宅に「沈滞」して、20 年近くになる。当時は「団地建替」で、アーバンラフレが誕生した頃だった。とある悲しい「事情」で、東山の急坂の上にある中古マンションから移り住んだ。

数年前まではお年寄りが目立ち、子どもをあまり見かけなかった。空家も多く、まさに「沈滞」住宅の感じであった。昨年まで順次、大幅な「リニューアル作戦」が展開されてきた。昨今の頃は、多くの棟が黒いシートで覆われ、工事関係者が動き回っていた。



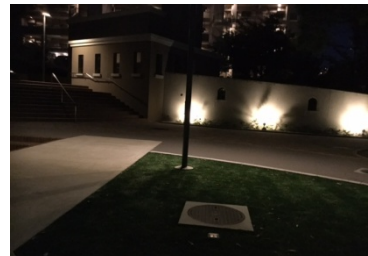
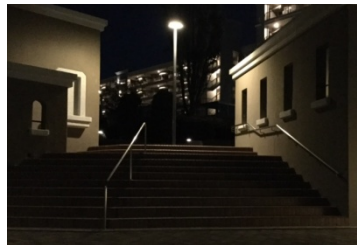
自宅もすっぽり黒いシートで覆われ、1 年前の 9 月 8 日はベランダの防水工事だった。景色が見えないだけでなく、暑さと臭いに悩まされた。そんな「苦労」の末に、自宅の外観、ベランダもきれいになった。空家も減ってきたようだ。子どもの声が響きわたるようになってきた。



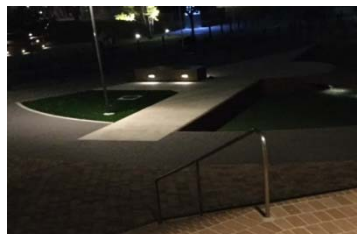
UR でお気に入りなのが、自宅に向かう途中の「広場」。リニューアルした広場で、子どもたちがどうやって遊ぶか興味があり、帰りがけに立ち停まって眺める。

子どもたちは「鬼ごっこ」や各種乗り物などで、広場をじつにうまく使って飛びまわっている。元気な子どもたちを見ていると、なんだか元気が出てくる。

下の 4 枚の写真は、先週土曜日の夕方 7 時前。日の入りが急に早くなり、すっかり暗くなっていた。ほんのすこし前には、西の空に夕焼けが楽しめた時間だ。



心地よい秋風が吹き、虫の音も聞こえていたので、誰もいない広場の腰掛に座った。昼間とは違う幻想的な空間に見える。



ぼんやりと光の空間を眺めていると、いろんなことが思い起こされる。昼間の疲れたよう草花も、なんだか浮かびあがってくるようだ。秋の虫の音も、「癒しの空間」にぴったりした感じである。ふと目をつむると、眠りについてしまいそうだ。しばしの秋をあとに、階段を上った。

(2017年9月8日)